

令和5年度（2023年度）
学校推薦型選抜（普通科等）出題の意図・解答例

問題1 出題意図

日本の経済活動は、外国人労働者の存在を抜きにして行うことができないなか、多くの外国人労働者が技能実習生として働いている。制度の目的や意義を反映しない中で働く労働者が多く、問題点が指摘されている。

出題では、まず文中で示された問題点を、日頃より具体的にどのように身近な問題として関心をもってとらえられるかを問うている。次に、このような日本社会での問題点が示されたときに、どのような対策を提案できるか、また自分たちの未来の職場での問題としてとらえることを問うことで、状況を読み取り解決策を考えられる論理的な思考力を問うものである。

問題2 出題の意図

問題文は、今年の「国際母なる地球デー」に国連事務総長が発表したステートメントから引用しています。実際に語られた文章であるため (youtube にあり)、難しい言い回しのない理解しやすい英文ですが、環境問題関連の用語については高校生には若干馴染みが薄い可能性があるため、注で対応しています。

問1は、英文の読解力および英文和訳の能力を測る問題です。問題文全体を読んだうえで、問で尋ねている「今後必要となる対応」が最後の2パラグラフに書かれていることが分かれば、さほど苦勞せず回答できるのではないかと思います。解答において、気温上昇の抑制と投資の2点に言及しているかどうかを採点のポイントとなります。

問2は、受験生に自分の考えを自由に書いてもらう問題です。ここでのポイントは、①自分が重要だと考える課題の提示とその根拠付け、そして②その課題への対応策の提示、が論理的に、かつ適切な日本語の文章で表現できているかどうかです。問題文のなかで触れられているトピックスをヒントとして使ってもらうことを想定していますが、問題文と必ずしも関連しない論点が提示されていても差し支えありません。

標準的な解答例 (問1のみ公表)

問1

今後我々は、気候の破局を回避するために、地球の気温上昇を1.5度に抑える必要がある。そのためには2030年までに排出量を45%削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成する必要がある。また、適応と回復力に対する迅速な投資も必要だ。これは、地球環境の危機に最も寄与していない最も貧しい人々や最も弱い人々のためのものである。(151字)